

文部科学省後援／子どもゆめ基金助成活動  
『幸せの種まきキャンペーン』

# 貧困と共に生きる子どもたち

SYD出前講座・課外授業

豊かさとは… 幸せとは… 生きるとは…  
彼らの輝く瞳が問いかけてくる



SUPPORTING  
YOUR  
DREAMS

**SYD**

# 世界に笑顔の花を！

## SYDと幸せの種まき運動

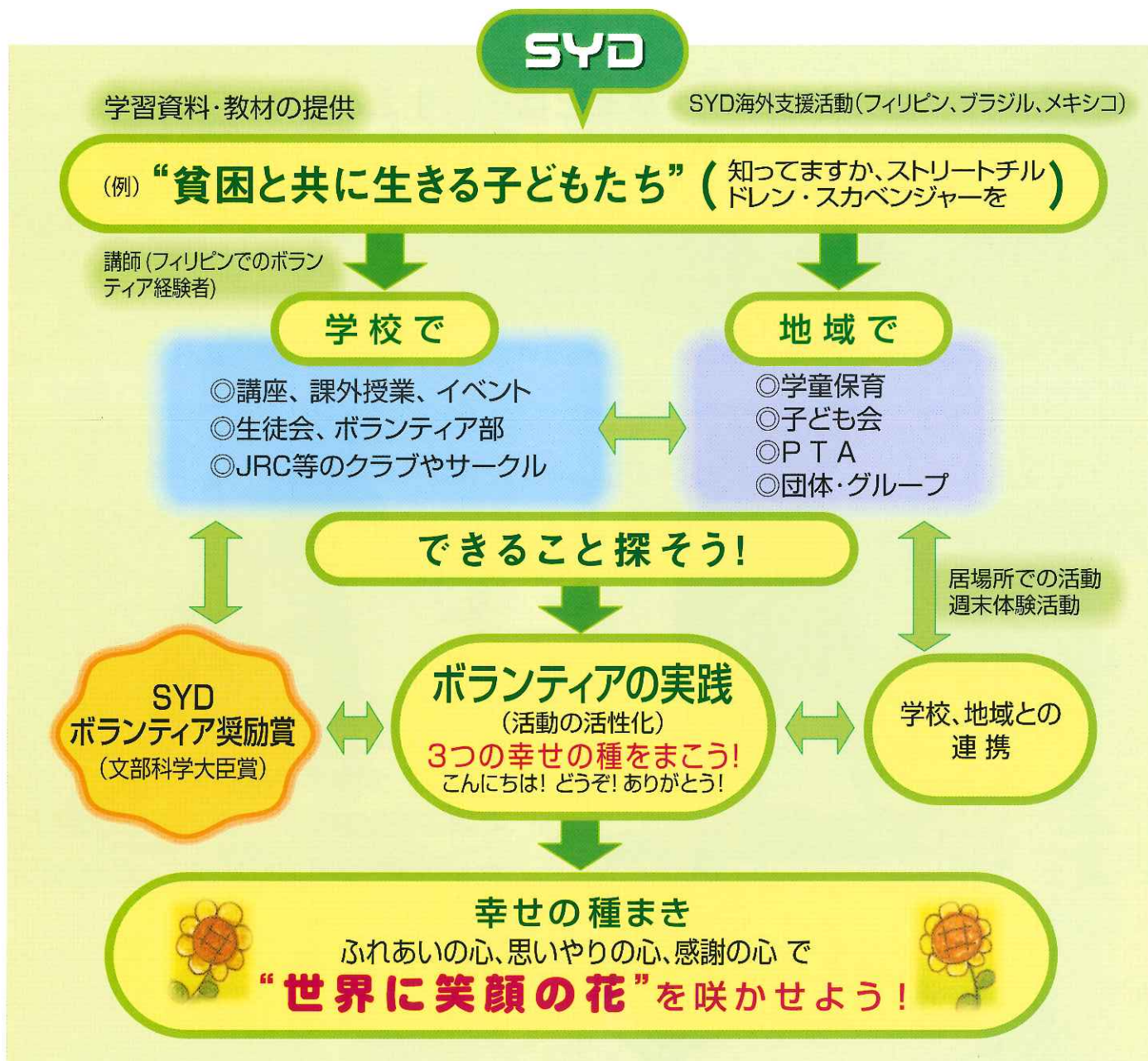
SYDは、1906年に創立され、2016年2月には創立110周年を迎えた、公益財団法人として内閣府より認可された社会教育団体です。

SYDでは、🌱「こんにちは！」という ふれあいの種 🌱「どうぞ！」という 思いやりの種 🌱「ありがとう！」という よろこびの種 をまわりの人々に、社会に一粒でも多くまき、この地球上に一輪でも多くの「幸せの花」を咲かせようという「**幸せの種まき運動**」を展開しています。

この「**幸せの種まき運動**」の一環として、全国から参加した青年たちがフィリピンを訪れ、ストリートチルドレンやパヤタスのゴミ捨て場でゴミを拾って生活している子供たち（スカベンジャー）との交流や支援活動を行う「**青年ボランティア・アクションinフィリピン**」を実施しています。（協力 在フィリピン法人：クリエイティブ・イメージ・ファンデーション代表 瓜生敏彦氏）

この事業に参加した青年たちは、ゴミの山の過酷な状況の中でも明るく力強く生きる現地の子供たちと交流し、恵まれた自分たちの生活と比べ、自らの生き方、考え方を見直すなど多くの事を学んでいます。

SYDでは、この貴重な体験と世界の貧困の中で生きる子供たちの現状を一人でも多くの子供たちに伝え、「ふれあいの心」「思いやりの心」「感謝（よろこび）の心」を育むきっかけにもらえればと願い、学校や地域と連携して「**幸せの種まきキャンペーン**」を全国で展開していきます。



# 幸せの種まきキャンペーン申込み受付中!

## 幸せの種まきキャンペーン 開催要項

### 後 援 文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議、公益財団法人日本レクリエーション協会、  
公益社団法人日本キャンプ協会

|                |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 趣 旨         | 全国の小学生、中学生、高校生、大学生などを対象にSYDが実践しているフィリピン等での支援活動をとおり、ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解します。それにより、「自分には何ができるか」の話し合い学習やボランティア体験学習などを推進し、自分自身を見つめるだけでなく、〈命〉の尊さ、周りの人々に感謝する心や相手を思いやる心、社会や人々のために役立つ喜びを実感し、“ふれあいの心、思いやりの心、感謝の心”を育むなど豊かな人間性の育成に寄与することを目的に開催します。 |
| 2. テーマ<br>(名称) | 学校等実施会場において実行しやすいものにする。<br>〔例〕「貧困と共に生きる子どもたち」「小さな一歩から始める国際協力」<br>「ストリートチルドレンを通して知る国際社会」等                                                                                                                                                                     |
| 3. 実施組織        | 学校(人権・道徳講座、課外授業、生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等、イベント)、市町村教育委員会、公民館、PTA・子ども会など各種社会教育団体やグループ                                                                                                                                                                        |
| 4. 募集会場        | 全国60会場 ※申込書を受け取ってからの選考となります。<br>(平成28年度)                                                                                                                                                                                                                     |
| 5. 実施概要        | ①講 師：各会場に2～3名の講師を派遣<br>※講師はフィリピンのボランティア経験者です。<br>②参加者：10名以上<br>③日 程：Aタイプ(標準) 90分 Cタイプ(半日) 2時間30分 ※要相談<br>Bタイプ 60分 Dタイプ(その他 分) ※中学生以上は90分が基本です。                                                                                                               |
| 6. 経 費         | 講師の派遣に関わる経費(交通費、宿泊費等)はSYDで負担しますが、最寄り駅への送迎をお願いいたします。<br>※会場の確保、参加者の募集に関する経費は開催地でご負担願います。                                                                                                                                                                      |
| 7. 申 込         | 別紙様式により「幸せの種まきキャンペーン」係までお申込みください。<br><u>随時受け付けています。</u> 詳細は決定次第ご連絡致します。                                                                                                                                                                                      |
| 8. その他         | 資料を参加者全員に配布します。<br>ホームページからも申込みできます。<br><a href="http://www.syd.or.jp/">http://www.syd.or.jp/</a>                                                                                                                                                            |



## 活動事例 I

- ◎実施校名：伊那市立伊那小学校6年孝組
- ◎テーマ：「貧困と共に生きる子どもたち」
- ◎人数：36名
- ◎時間：90分



校長先生も特別参加。時にはクイズを折り込みながら授業は進む



「ボランティア アクション in フィリピン」に参加した児童の体験発表を真剣な表情で聞くクラスメイト

### ☆担任より

子どもたちにとっては、なじみの薄い国なので、事前に日本との比較をしながらどんな国なのか勉強してきましたが、それでもぴんと来ない所もあったと思います。しかし、実際にSYDの話や写真、映像を見せてもらいとてもよい勉強になり、どの子の心にも響いていると感じました。

## 活動事例 II

- ◎実施校名：沖縄キリスト教短期大学・生徒会
- ◎テーマ：「貧困と共に生きる子どもたち」
- ◎人数：40名
- ◎時間：90分



「私たちにできることは何だろう…」ひとりひとりの胸に様々な思いが去来する



パワーポイントやDVDを使い視覚にも訴える授業風景

### ☆生徒会代表より

ほとんどの人が真剣に話を受けとめ、それぞれが自分にできることを考え始めたと思います。これから学内のNPO団体と協力し、まず始めに身近にできる活動から取り組んでいきたいと思っています。

## 活動事例 Ⅲ

- ◎実施校名：宜野湾市立宜野湾中学校3学年
- ◎テーマ：「小さな一歩から始める国際協力」
- ◎人数：220名
- ◎時間：1日(9:30～15:00)



ひとりひとりの想いを  
メッセージに託して



宜野湾中学校では1日のプログラムにチャレンジ。午前中は真剣な眼差しで授業、午後は楽しくウチワへのメッセージ書き。その後、そのウチワをSYDスタッフとボランティアたちがフィリピンの子どもたちに届けました。現地とのつながりも貴重な学習体験。

宜野湾中学校からのウチワを手にし、大喜びの子どもたち



### ☆担任より

生徒達と同世代の子どもたちが貧困で苦しんでいる現実を知ることによって生徒の心に「助け合い」や「一生懸命に生きる」意識を持たせたいと考え、今回取り組みました。午前の授業の他、午後にメッセージ書きの活動を取り入れたことで「自分たちも何かできるんだ」という気持ちが芽ばえ「行動をおこそう!」という意識まで達しました。現在は、生徒の方から「絵本を通して子どもたちを励ませないか」と意見が出ましたので、実際に絵本づくりの作業に取りかかっています。



山口県フロンティア大学付属香川高校



北海道マリア幼稚園



沖縄県宇栄原小学校PTA

## ～ 参加者のアンケートより ～

〈原文のまま〉

- ゴミ山にすんでいる子達が何で笑っていられるんだろう？この子供達は、今の日本の子達と違う何かを「心」の中に持っている気がしました。〈中3・男〉
- 心がはりさけそうでした。世界には、こういう人たちがいるのに、給食を平気で残す自分がみじめに思いました。〈小6・女〉
- ぼくたちは、こんなに幸せだったのなら、ほかの人にもこの幸せをわけて、その人たちも幸せにしたい。〈小4・男〉
- 期末テストなどでとても心配事が多いですが、勉強の心配をできることはとても幸福なことなのだと改めて思いました。  
〈中3・女〉
- ボランティアには、お金や物資とかではなく、「心」が大切なんだとわかった。〈中3・女〉
- せっかく子どもにあげた弁当をその子はちょっと食べただけでかばんにしまい、その弁当を親にあげるというのが衝撃的でビックリだった。自分より小さな子どもでも、ゴミ捨て場でがんばって生きているので、自分も精一杯生きていく！！  
〈中3・男〉
- 私は、今日SYDの人たちの話を聞いて、本当の幸せって何だろうなと思いました。私が毎日している当たり前のこと、ご飯をおなかいっぱい食べたり、学校に行ったりすることが、彼らには「夢」として実現していない。なのに、自分たちは満たされていることでいっぱいだというのに、面倒な用事を言いつけられただけで文句を言うなんて本当に情けないなと思いました。ただ、何となく日々を過ごして、自分たちが幸せ者だということに気付かない私たちと、一日一日を懸命に生きている彼らの表情は、だから全然違うんだなと思いました。私は、今自分に何ができるのか、最も大切なことは何か、彼らの姿勢を見習って一生懸命考えながら大人になっていきたいなと思います。〈中3・女〉
- 私は何かあると「自分は不幸だ」とか思う事がある。でもこのビデオの子達は「キラキラ」していて、自分が恥ずかしくなった。だからこれからはムダ使いを止める。ご飯を残さず食べる。いつどんなときでも自分が不幸だと思わない。どんな事があっても、明るく、楽しく、まわりの人に元気を与えられるような人になろうと思う。〈高1・女〉
- 今、世界のいろいろなところでストリートチルドレンのような子どもがたくさんいることを知り、とてもかわいそうだなと思った。そして、そのかわいそうな人達がいることを忘れずに、少し何かあっても、くよくよしない心の強い人になりたいと思いました。〈小6・男〉
- 私は、1日1日を大事に過ごしていくことが、『幸せの種まき』だと思います。〈小6・女〉
- 家族を大事にしようと思った。世界中の子どもたちをみんなが助けないといけない。〈中3・男〉
- これからはチクチクことばを使わないでフワフワことばを使います。〈小5・女〉
- ゴミ山でくらしている子どもたちがいることがはじめてわかりました。私は、物や食べ物などをのこしたり、つかえる物をすてたりしてはいけないと気がつきました。〈小4・女〉
- 現地の子ども達は一生懸命に“今日”を生きているのに、私はいつも毎日をダラダラとただ過ごしているだけだと気づいた。勉強したいという子供達。将来彼らを支援できるような人になりたいと思った。〈高1・女〉
- 話を聞いて泣きそうになりました。私たちのふつうだと思っていたことが、本当はとてとてもぜいたくだったということもわかりました。〈小6・女〉
- たくさん自らに問いかける時間となりました。これから私が生活する中で、自分が幸福な環境に生まれたことを忘れないで、まず近くにいる人に(どんな形で)幸せの種まきができればよいと思います。〈高2・女〉



## 御手洗 康 (みたらい やすし)

公益財団法人修養団 (SYD) 理事長

平成9年文部省教育助成局長、平成11年文部省初等中等教育局長、平成13年文部科学審議官、平成15年文部科学事務次官、平成17年放送大学学理理事長、平成23年帝京大学教職大学院客員教授、教科書研究センター副理事長

私たちは「幸せの種まきキャンペーン」を応援しています

明石 要一 千葉敬愛短期大学学長、千葉大学名誉教授  
鈴木 優子 (学)立教女学院 法人事務局長  
仲野 好重 (一財)人間塾塾長  
長沼 豊 学習院大学教授  
堀井 榮夫 全日本中学校長会事務局長  
山田 一功 (公社)日本PTA協議会相談役

## 推薦のことば

千葉敬愛短期大学学長、千葉大学名誉教授 明石 要一

SYDを知っていますか。もし知らなくても、「幸せの種まきキャンペーン」は知ってほしいと思います。世界のストリートチルドレンを支援し、恵まれない子どもたちをサポートする中で、日本の子どもたちに、思いやりの心と感謝の心を育もうとするものです。

SYDは未来を担う青少年の育成を目指しています。2016年には創立110周年を迎えます。日本に数多くある青少年団体の中でも老舗です。オピニオンリーダーのひとつです。

私も応援する魅力ある団体です。

明石 要一

## 標準日程表

●Aタイプ:90分 ●Bタイプ:60分 ●Cタイプ:半日(概ね2時間30分)

| プログラム                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                 | A            | B    | C    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|--------------|------|------|
| (1)知ってますか、ストリートチルドレン・スカベンジャーを<br>—パワーポイントを使って—<br>①ストリートチルドレン・スカベンジャーとは<br>②どんな生活をしているのでしょうか（家族は、家は、水道は、電気は、テレビやゲームは？）<br>③事実・数字から見る世界の貧困<br>④子どもたちの夢は<br>⑤私たちに何ができるだろう<br>(2)現地の様子(活動)を知ろう！<br>●体験発表や感想文朗読（ボランティア・アクション in フィリピン参加者）<br>●DVD「ボランティア・アクション in フィリピン ―世界に笑顔の花を！―」 |                                                                                 | 90分<br>(2時限) | 60分  | 150分 |
| (3)まとめ(質疑応答、感想)                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                 |              |      |      |
| アンケート記入                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                 | 15分          | 事後活動 |      |
| (3)選択プログラム<br>(60～90分)                                                                                                                                                                                                                                                           | A. グループワーク(話し合い学習)<br>(例) ●できること探そう！<br>B. 実践活動 ●サポーターバッグ作り<br>(例) ●ウチワにメッセージ 等 | 事後活動         |      |      |
| (4)まとめ(質疑応答、感想発表、アンケート記入)                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                 |              |      |      |

## 申込手順



お申し込み・問い合わせ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2

TEL: 03-3405-5441 / FAX: 03-3405-5424

E-mail: info@syd.or.jp / http://www.syd.or.jp/

SYD「幸せの種まきキャンペーン」係

学校にも

病院にも

行けない

子どもたちがいる

おなじ空の下に

今も…

